

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

- 児童について
- ・明るく素直、元気がよく挨拶できる児童が多い。係や当番、委員会の活動に熱心に取り組む児童が多い。
 - ・話の聞き方が上手な児童、時間を守ることができる児童、友達や下級生に優しく接する児童が多い。
 - ・基礎学力の定着に課題のある児童がいる。自分の能力に自信がもてない児童が多い。
- 教師について
- ・学級担任の半数以上が現任校が初任で、若く活力がある。ベテランも含めて教師の人間関係が良好である。
 - ・経験が浅いため、指導力にやや課題があり、自信がもてない教師がいる。
 - ・協調性には優れるが、主体性・積極性に課題のある教師がいる。
- 保護者・地域について
- ・学校の方針・教育活動に理解を示し、学校に協力的な保護者・地域の方が多い。
 - ・学区に農家や高齢者施設があり、体験学習や福祉学習に大きく寄与してくれている。
 - ・開かれた学校づくり協議会の土曜事業部による和太鼓クラブの指導・太鼓運搬等、委員が協力的である。
- [前年度の成果と課題]
- 基礎基本の定着
- ・「授業力の向上」を校内研究のテーマとし、年間6回の研究授業を実施。算数少人数指導を充実させ、区学力調査において到達度75%の児童の比率が国語・算数ともに約5ポイント向上した。基礎基本のさらなる定着及び学習意欲の向上が課題である。
- 心の教育の充実
- ・挨拶がきちんとできる児童が多く、来校者からも高い評価を得ている。今年度も日常的指導を継続する。また、体験活動をさらに充実させ、豊かな感性を育むことを課題とする。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 基礎学力の定着**

- 教師の授業力向上
- 校内研究の充実
- 算数少人数指導のさらなる充実

重点的な取組事項－2 自己肯定感と豊かな心の育成

- 自己肯定感の育成
- 思いやりの心を育てる
- 豊かな心をはぐくむ読書活動の充実

重点的な取組事項－3 健康の保持・増進

- 基本的な生活習慣の確立
- 年間を通じた体力づくり
- 保健衛生指導と食育指導の推進

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 基礎学力の定着**

- ◎区の学力調査における正答率、国語は昨年度70.1から70.8に上昇、算数は79.6から76.8にダウン。昨年度は算数の少人数指導が成果をあげたが、国語・算数ともに学力の伸びに課題が残る。
- 国語・算数の単元テストはともに70点以上の達成基準を達成し、国語は87.4%、算数は83.8%に達した。宿題の提出率は88%であり、全く家庭で宿題を行わない児童もいる。学習準備は、かなり厳しい状況であり、約73%と低い。家庭学習や忘れ物を無くす声かけを保護者に働きかけ、次年度も、目標数値を高めて、学力の向上を図る。

重点的な取組事項－2 自己肯定感と豊かな心の育成

- 自己肯定感アンケート結果では、「自分が好き」と答える児童は59.8%、「自分らしさがある」は64.6%、「自分は役立つことができる」は65.0%と低い。「自分は得意なことがある」は86.6%、「自分はやればできる」は80.5%と高くなった。高学年になるほど数値が低くなる傾向がある。「認め・励まし・ほめる」ことを基本に、さらに自己肯定感を高めていきたい。
- 読書活動の推進では、目標値達成者は低学年43.6%、中学年65.9%、高学年62.9%と目標を達

成できなかった。読書をして記録忘れが多く、記録方法の改善が必要である。朝読書や図書の時間等を活用して読書活動が活性化されつつあるので、図書ボランティアの協力等、さらに活性化を図ってきたい。

○栽培活動は、地域の農家の協力等により、充実した活動ができた。次年度も計画的に進めたい。

重点的な取組事項－3 健康の保持・増進

○基本的な生活習慣の確立について、5・9・1月の生活調査結果では、10時迄に就寝70%以上、7時迄に起床80%以上、朝食の摂取率90%以上の目標をいずれもクリアしたが、個別に聞くと「朝食を食べてこなかった」等と答える児童もいた。早寝・早起き・朝ごはんは、年間を通して指導していく。

○年間を通した体力づくりについては、体力調査・水泳・なわとび・持久走等の前年度自己記録を更新したが、その数値は都や区の数値と比べて低い。次年度も教科体育をはじめ、年間を通して運動に親しませていく。

○保健衛生指導と食育指導の推進については、保健衛生全校指導年3回以上、全学級年2回以上の担任と栄養士による食育指導を実施できた。年間を通して手洗い・うがいを励行し、近隣の学校がインフルエンザによる学級閉鎖を行う中、罹患者も少なかった。次年度も年間を通した計画的な指導を行っていく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

本校児童の全体像は「素直で優しく子どもらしい子ども」である。しかし、学力や体力については課題がある。学力に関しては、教師の研究・研修を充実させ基礎・基本の定着から一段階上の応用力が身に付くような授業を展開させるとともに、家庭学習に対する保護者の協力をより一層高めていきたいと考えている。

心身の逞しさという点では、区の水泳・陸上・ミニバスケット・サッカーと全ての大会に参加し、大会に向けた練習の中で逞しさを身に付けさせたいと考えた。和太鼓クラブの活動では、厳しい練習を課し、たくさんの聴衆の前で演奏することによって精神面での強さも養うことができた。しかしこれらの取り組みは一部の児童に対するものである。全校児童に対しては運動会や学芸会・校内水泳記録会・持久走大会・縄跳び大会に向けた取り組みにおいて心身の逞しさを養ってきた。次年度も年間を通して運動に親しむようにさせていく。

本校の特色の一つである農業体験活動や福祉活動が本校児童の「素直で優しい」という長所を伸ばしている要因と考えられるので今後も充実した活動を展開していきたい。

本年度は創立10周年記念事業の年であったが、周年記念事業を推進する中で、PTAをはじめとした保護者や地域の方々の本校に対する熱い思いとすばらしい協力を得ることができた。今後も「子どもは家庭の宝・地域の財産」ととらえ、家庭・地域の協力を得ながら、知・徳・体のバランスのとれた健全な子どもの育成に努めていきたい。

2. 平成23年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 基礎学力の定着

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○足立区の学力調査において到達度を向上させる。	・国語・算数ともに、到達度70%の児童を75%以上、到達度50%未満の児童50%以下にする。	・到達度70%以上の達成者は、国語59.3%、算数66.9%で目標を達成できなかった。 ・到達度50%未満の児童は国語15.1%、算数12.0%で目標を達成。	・正答率では、国語は昨年度70.1から70.8に上昇、算数は79.6から76.8にダウン、国語・算数ともに学力の「伸び」に課題が残る。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○教師の授業力向上	・児童が「わかった」と実感できる授業の実現	・週案・授業観察等にて確認・指導 ・単元テストで到達度70%以上が7割	・単元テストでは到達度70%以上は、国語87.4%、算数83.8%と目標を達成。	・単元終了時にはできても、時間が経つとできない子が多い。繰り返し学習等、確実な定着をめざす。	○
○校内研究の充実	・事前授業を含め年間13回の研究授業を実施 ・授業と学級経営の充実	・研究主任を中心に、指導案の作成段階から組織的に研究に取り組む体制の整備 ・事前・事後を含め全員公開授業の実施	・7回の研究授業・協議会及び事前・事後を含め全員が合計26回の公開授業を実施。 ・研究の成果を生かし日々の授業改善を図った。 ・児童は落ち着いた生活で、学級の荒れ等は皆無であった。	・経験の少ない若い教師が多い中、教科や領域を絞ることなく校内研究を進め、多くの教科や領域の特性にふれることができた。研究を継続して進めたい。	○
○算数少人数のさらなる充実	・中高学年の算数において毎時間少人数指導を実施。 ・単元毎に個人カルテを点数化しフィードバック個別指導。	・少人数指導担当教師を中心とし、観点別に個々の児童の得点及び特質を記録し、授業の改善を図る。 ・単元ごとにフィードバック&個別指導。	・少人数指導担当教師を中心に、単元毎に個人カルテを点数化し、個別指導に活かした。	・区学力調査における算数の正答率が昨年度比2.8低下。単元毎に個人カルテを活かし、繰り返し学習等、より確実な定着をめざす。	○

重点的な取組事項－2 自己肯定感と豊かな心の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○自他ともに尊重し合う行動様式を身に付ける。	・アンケート調査8割の児童が達成	・自己肯定感アンケート5項目中、8割以上は2項目。3項目は6割と低かった。 ・挨拶や思いやりのある行動等、自他ともに尊重し合う行動たいへんよくできている。	・教師の温かくも厳しい指導の中、児童は自他ともに尊重し合う行動様式を身に付けている。引き続き問題傾向は早めに察知し、早い段階で指導・改善させていきたい。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○自己肯定感の育成	・自己肯定感に関するアンケートで8割以上が8割	・児童朝会時を活用した講話と学級指導（毎月2回以上を自己肯定感または豊かな心） ・学年・学級指導でのがんばりを認め合う活動場面の設定と自己評価アンケート	・アンケート結果では、「自分は得意なことがある」は86.6%、「自分はやればできる」は80.5%と高くなった。 ・「自分が好き」と答える児童は59.8%、「自分らしさがある」は64.6%、「自分は役立つことができる」は65.0%と低かった。	・アンケート結果では、高学年になるほど数値が低くなる傾向がある。 ・「認め・励まし・ほめる」ことを基本に、さらに自己肯定感を高めていきたい。	○
○思いやりの心を育てる	・「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言える。 ・話をきちんと聞く。 ・気づき・考え・行動できる。	・日常的に全職員で指導する。 ・農業体験活動を通し自然を大切にする心を培い高齢者施設や保育園との交流を通して弱者に対する優しさを育む。	・校門でのあいさつ指導では、全ての子が自分からあいさつができ、9割の子が「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言える。 ・朝会や集会時、日常の授業の話の聞き方はすばらしい。	・あいさつの指導が日常的にできている。 ・農業体験活動や高齢者施設・保育園との交流により、体験を通して豊かな心の育成が進んでいる。	◎
○豊かな心をはぐくむ読書活動の充実	年間を通して ・低学年は100冊以上 ・中・高学年は30冊以上（概ね3000ページ以上）	・読書タイムの設定と、担任や図書ボランティアによる読み語りの実施 ・校内読書週間の設定と年間累積記録カードの活用と目標達成者の表彰。	・1月末までの読書調査結果では、目標値達成者は低学年43.6%、中学年65.9%、高学年62.9%と目標を達成できなかった。	・読書をしても記録忘れが多く、記録方法の改善が必要である。 ・図書ボランティアの協力等、さらに読書活動の活性化を図っていきたい。	△

重点的な取組事項－3 健康の保持・増進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○規則正しい生活習慣を身に付け、進んで運動し体力の向上を図る。	・各項目、個人目標の達成者7割以上。	・5・9・1月の生活実態調査では達成基準をクリアー。 ・年間を通して運動に取り組みせるように、毎月の体育朝会で働きかけた。	・生活実態調査では基準を達成したが、本当の実態は結果数値を下回っていると思われる。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○基本的な生活習慣の確立	・生活実態調査では、10時迄に就寝70%以上、7時迄に起床80%以上、朝食の摂取率90%以上を目標。	・5・9・1月に生活実態調査を実施。	・5・9月の生活実態調査では、就寝・起床・朝食とも達成基準をクリアー。 ・個別に聞くと「朝食を食べてこなかった」等と答える児童もいた。	・早寝・早起き・朝ごはんは、年間を通して指導していく。	○

○年間を通した 体力づくり	・体力調査・水泳・なわとび・持久走等の前年度自己記録を更新	・体力調査・水泳・なわとび・持久走の前年度自己記録と比較。	・すべての項目で昨年度の自己記録は更新。	・体力調査結果数値は都や区の数値と比べて低い。 ・達成基準を児童にとって分かりやすくしていく。	○
○保健衛生指導と食育指導の推進	・保健衛生全校指導年3回以上。 ・全学級年2回以上の担任と栄養士による食育指導。	・養護教諭を中心に保健衛生全校指導。 ・年間を通して手洗い・うがいの指導。 ・担任と栄養士による食育指導を実施。	・保健衛生全校指導は年6回実施。 ・手洗い・うがい・換気について年間を通して指導。 ・担任と栄養士による食育指導を全学級2回以上実施。	・年間を通して体力づくりに取り組ませた。 ・近隣の学校がインフルエンザによる学級閉鎖を行う中、罹患者も少なく、学級閉鎖は無かった。	○

3. 学校活動全般について

◎極めて落ち着いた学校である。学級が荒れたり保護者・地域からの理不尽な要求や苦情等がきたりすることは無い。家庭や地域の生活状況は決して高水準とは言えず、生活の乱れが懸念される環境もある。しかし、教職員の熱心な指導で子どもたちはたいへん落ち着いた学校生活を送り、それを支える保護者や地域の方々の子どもたちに対する愛情が深く、学校に対してもご理解をいただき、協力的であることに感謝する。

明るく素直で思いやりのある優しい子どもたちに、学習や体力向上に対する意欲をさらに高めさせ、自信をもたせ、自己肯定感を高めていくことが今後の課題である。